



次号の巻頭文は、西運営委員の予定です！

お楽しみに！

お品書き

【その壹】CODEレターVOL.9

【その貳】プロジェクトNEWSダイジェスト版

【その参】セミナー及びグッズ案内

以上

CODE

Letter

2003.10.10 VOL.9

CODE海外災害援助市民センター発行

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替 : 00930-0-330579

平和を祈るということ セプテンバーコンサート

運営委員 島田 誠

(アートサポートセンター神戸代表)

「9・11 セプテンバー・コンサート」がギャラリー島田で開催された。2年前、同時多発テロが起こった9月11日に、平和への思いを音楽でつたえようと、NYではじまったムーブメントだ。日本では神戸に本社を置く(株)フェリシモが呼応し、その呼びかけにギャラリー島田が応じた。9月1日に話があり、その日の内に10人の出演者全員が決まった。声をかけた全員がスケジュールを都合して快諾してくれた。

私はこの試みを単に「平和を願う」という学芸会に終わらせないで、もっと深く考える機会でありたいと考えた。

オープニングは朴元(パク・ウォン)さんの韓国伝統打楽器チャンゴの演奏。中国、台湾、インドの民族音楽、アポリジニの民族楽器とヴォーカルの即興演奏、詩の朗読など多彩なプログラムの最後はピアニストの伊藤ルミさんが、生涯を通じて戦争、ファシズムに反対したチェロの巨匠カザルス(当時94才)が1971年国連での最後の演奏会で紹介し平和を象徴する音楽となったカタルーニャの民謡「鳥の歌」を心を込めて弾いた。

新聞では「9・11の犠牲者を追悼して」と紹介されたが、私の中ではその意味は小さい。「9・11」は憎悪の連鎖のひとつに過ぎず、平和とは人類の見果てぬ夢に終わらせてはいけない永遠の課題である。

「9, 11」の犠牲者は3,234名、その後のアフガンの空爆で3,767名が、イラク戦争で3,240名以上の方が亡くなった(いずれも推定)。さらに遡っていけば1991年の湾岸戦争では15万8千人。ベトナム戦争では200万人。第二次世界大戦ではじつに3千万人にもものぼり、広島、長崎への原爆投下による死者は10万3千人である。平和を脅かすのは砲弾、銃弾だけで

はない。今でも8億人の人が栄養不足にくるしみ、1千万人以上の人が餓死の危機に直面している。こうした事実をスライドでギャラリーの白い壁に投影しながらコンサートは行われた。

「平和への思い」は「遠い戦争に反対する」「日本が戦争に巻き込まれることに反対する」というレベルに止まる限り「平和エゴイズム」に過ぎないだろう。

戦争がお互いの大義を賭けての巨額の戦費と多数の犠牲者によって遂行される戦闘だとすれば、平和もまた、それを守るために自己を犠牲にして闘うという側面なしには獲得できるものではない。

私たちの日常一つ一つの行動にも「平和」へと繋がっていく意志の選択がある。それぞれの選択が地球温暖化、砂漠化、資源枯渇、南北格差などにどこかで繋がっており、そんなに遠くに思いを馳せなくても、自殺、孤独死、少年犯罪などが日常的にある。そのことと自分はどこかで繋がっているという自覚なしに「平和を祈念する」では済まない。

「自らの責任を問い続ける一匹の鬼を肝に住まわせる」(注)ということが「平和を問う」ということなのだ。

(注)中谷健太郎「湯布院幻燈譜」より

島田運営委員が代表を勤めております「アートサポートセンター神戸」につきましては、こちらのURLをご参照下さい。

<<http://www.gallery-shimada.com>>

NGOことはじめセミナー第2弾

連続セミナー、「NGOことはじめ～貧困から世界をみる～」が10月7日より始まりました。第1回は「貧困と飢餓」をテーマに日本国際飢餓対策機構の清家弘久さんを講師にお迎え開催しました。

先ずエチオピアでの活動の紹介から始まり、飢餓が起こる背景を日本社会との関係に絡めて分かりやすく説明していただきました。



いま現在、世界中で飢餓が原因による死者は1分間に28人、毎日3万5千人の人々が亡くなっています。飢餓は多くの要因が結びつき問題を複雑化させていますが、清家さんは日本の生活習慣に目を向けると決して飢餓と無関係ではないと言っています。

日本では年間11兆円に相当する食料が捨てられ、この額は国内の農水産取引額に匹敵するそうです。食料自給率についても約40%（穀物自給率は約28%）と先進国の中でも最低です。過去には米の不作による外国米の買い占めで国際価格が高騰し、本当に食糧を必要としている他国の経済を圧迫していたことも知りました。

今回のセミナーは、私たちの生活を見直す良い機会となりました。飢餓は遠い国の話ではなく日常の問題として、シンプルに生活する必要性を感じました。

次回は「貧困と人権」を10月24日（金）を開催します。是非ご参加下さい。（文責：事務局 福田典男）

シリーズ第2回

CODEに携わる人々

シリーズ「CODEに携わる人々」第2回は、日本で唯一の環境防災科を設置している兵庫県立舞子高校環境防災科一期生で2年生の岸本くるみさんです。

私が翻訳をさせてもらうようになったきっかけは学校へ来られていたCODEの方々とお話して興味をもったことです（意外と家から事務局が近くにあることにも驚きでした）。すぐお話ししやすかったせいもあってか、なにか自分もこういう活動にぜひ関わってみたいなーと思ったのです。

と、始めたものの、人並み以下かもと言っても申し訳ない私の英語能力。翻訳ボランティアというよりは、勉強させてもらっています。ですがなんとなく意味がわかってくると楽しいので、ゆっくりとですがやらせてもらっています。翻訳をはじめてから、授業やほかの英文をみても初めから投げずに、読んでみようとする事ができるようになりました。少しは進歩有りでしょうか。

私は環境防災科という学科の生徒なのですが、この夏休みに教育交流や防災の発信、視察という目的を掲げて先生2人

と有志5人でネパールへ行ってきました。たくさんの方を見聞きでき、刺激になることも色々ありました。現地の子どもと交流もしましたが、やっぱり必要なのは英語。困ることもありましたが、なんとか話をしたくて一生懸命でした。楽しくていい経験が出来ました。

帰国してからのネパールの翻訳を色々旅のことを思い出しながらやりました。一度中へ入って、誰かと親しくなったりすると外国の景色は背景に見えなくなるから不思議です。

今はやりたいことがたくさんあります。翻訳やニュースレターを読むのも今では私の中で大切なことになっています。これからももっといろいろなことを知って、広く世界を見れるように...と思います。表現の仕方、言葉の使い方も上手になりたいですね。

現在、翻訳ボランティアとしてCODEの活動にご協力いただいている方は、今回ご紹介した岸本さんはじめ10名います。翻訳ボランティアのみなさんには、UNOCHAリリースウェブの災害情報を翻訳していただき、当センターHPの「World Voice」の「災害情報」の中にUPしております。ご存知の方も多いかと思いますが、一度こちらのHPをご覧ください！

これまでの活動記録9/1～9/30

- 9/7 アフガニスタン報告会(堺女性大学)
- 9/11 セプテンバーコンサート参加
- 9/14 はたっこ太鼓事務局来訪
- 9/17 運営委員会開催
- 9/24 アフガニスタン報告会(鈴蘭台食品公害セミナー)
- 9/28 地球平和まつりブース出展

ありがとうございます。9/1～9/30

会員・寄付者ご芳名（以下順不同・敬称略）

一般寄付

市原崇行,三島宣彦(以上東京都)

新規会員

・正会員
個人:神谷克彦(東京都)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替：00930-0-330579

事務局より

今年度も残すところ、あと半年、アツという間の半年でした。12月にはNPO法人承認もおりる予定です。下半期も、セミナーなどを通して皆さまと共に学びの場を数多くもちたいと考えています。今回同封いたしました、セミナー案内は現在決定しているものです。皆さま、多数のご参加をお待ち申し上げております。